

幼稚園で使用されることば：  
東大阪地域における外国人保護者への日本語支援の  
ために

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-11-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 樋口, 尊子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4597">https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4597</a>

# 幼稚園で使用されることば

—東大阪地域における外国人保護者への日本語支援のために—

樋口尊子

## 要旨

本稿は、東大阪地域に住む外国人保護者に対する日本語支援のひとつとして、子どもを幼稚園に通わせる際に必要となる、幼稚園からの配布文書を読むための支援方法を提案する。そのために、実際にどのようなことばが使われているのか、どのようなことが日本語学習者にとって理解が難しいのかを調査し、そこからどんな支援方法が望ましいか考察を行った。その結果、配布される文書の表現には共通の特徴が見られたため、あらかじめその特徴を知っておくことが学習支援に役立つと考えられた。しかし一方で、幼稚園で使用されることばは、園によって保育内容が異なることから園独自のことばも多く、すべての外国人保護者を対象に同じ内容で支援ができないことも明らかとなった。また、日本語学習者にとって理解が難しいことばは、漢字圏、非漢字圏で差があったが、共通の支援方

法として、事前に知識提供を行うこと、文書を書く場合は、ルビをふる、見出しをつける、行動を起こさなければいけないことを強調するなど有効であると考えられた。

## キーワード

幼稚園で使用されることば 外国人保護者への日本語支援 幼稚園の配布文書 ことばのバリエーション

## はじめに

本研究のきっかけは、数年前に東大阪市にある地域日本語教室<sup>※①</sup>で子育てをしている日本語学習者に困っていることを尋ねたところ、「幼稚園から子どもが持ち帰る配布物が読めなくて困った」「子どもが幼稚園に入って初めて毎日のように文書を読まなければならない

状況になった」「わからない場合は、辞書で調べる、誰かに読んでもらう、口頭で説明してもらうなどの方法で回避してきた。でも本当は母親として自分で読み、理解したい」ということを聞き、そのために何か支援をしようと思ったことである。幼稚園で配布される文書を読めない理由は2つあり、①「漢字が読めない」、②「使われていることはわからない」という課題があることがわかった。そこで①については、どのような漢字が多く使われているのかを調べ、外国人保護者の手助けとなるテキストの作成を行った<sup>※②</sup>。今回は②について、実際どのようなことばなら理解しやすいのかを調査し、その支援の方法について検討することにした。

## 1. 研究の概要

幼稚園に子どもを通わせる外国人保護者についての研究は、外国人保護者と幼稚園の先生のコミュニケーション、異文化についてのものが多い。幼稚園から配布される文書の分析なども行われているが、特定の園での配布文書にある文型についての分析であり、語彙だけに注目したものはなく、幼稚園で使われている語彙については「バリエーションが多い」ということだけが述べられている。「園に『園の文化』とも言おうべき独自性のある暗黙の了解事項が数多くある」「園の文化や習慣がわからず苦労する」「小学校や中学校と違い、園は持ち物や活動のバリエーションが園ごとに大きく異なる」(富

谷・内海・仁科2012)など、他の先行研究にもバリエーションの多さが指摘されているが、それを具体化されたものはない。そこで、①実際にどのような持ち物や活動のバリエーションがあるのか、②そのことばの中で、どのようなことばが外国人保護者にとって難しいのか、どんなことばなら理解しやすいのか調査を行った。

### 1—2. 研究方法

前述の①②を知るために、3つの調査を行った。調査1では、ひとつの幼稚園のおしりに使用されていることばを分析し、その特徴をまとめた。調査2では、実際に幼稚園で使用されていることばを複数の園から集め、どのような傾向があるか比較を行った。調査3では園で使用されていることばについて、日本語学習者がどのようなことばを理解しているかを調査し、理解しやすいことばとそうでないことばを分析した。

### 1—3. 協力者

本研究では、本学のある東大阪地域の外国人保護者への支援を目的とするため、東大阪地域の幼稚園、地域日本語教室、日本語学校に調査を依頼した。

## 2. 東大阪地域について

東大阪市は大阪市の東に隣接する中核市であり、人口は約50万人である。現在の外国籍の人口は約1万6948人で人口の約3%にあたる。全国で10番目に外国人人口が多い都市である。(2012年政府統計総合窓口) 国籍は、韓国・朝鮮が最も多く1万2276人、続いて中国が3156人、ベトナムが354人、フィリピン300人と続く。外国人世帯(日本国籍の家族がいない世帯)が8085世帯、複数国籍世帯が2739世帯で、0歳〜14歳までの人口は1714人、幼稚園に通う3〜5歳は194人(2013年6月東大阪統計書)である。市内には日本語学校がなく日本語を学ぶには識字教室や地域日本語教室を利用している人が多い。

## 3. 調査1 幼稚園の「園だより」の分析

本学の附属幼稚園である大阪樟蔭女子大学附属幼稚園で発行している「園だより」1年間分から、どのようなことが使用され、どのような特徴があるのか分析を行った。「園だより」は1か月に1回発行され、あいさつ、月の行事予定、保護者への依頼、お知らせ、保育のねらい、誕生月の園児名が書かれている。それぞれの文章で使用されている表現とことばに注目し、繰り返し使用されているものをまとめた。

## 3-1. 表現

表1 「園だより」の表現と内容

幼稚園の意志表示	幼稚園の指示	許可・注意	伝達	可か不可の	説明	注意	呼びかけ	依頼 アドバイス	表現	表わされている内容
「思います」 「〜になるよう…たいと思います」	「A1にはB1、A2にはB2」 (例) 年長には…年少には… 「Aの場合はB」 (例) 食事がサンドイッチの場合: 合は:	「〜でもかまいません」 「〜はいりません」	「〜できます」「〜できません」	「〜できません」「〜できません」	「〜して〜」「〜ようにして」 「〜ないようにして」	「〜(ようにし)ましよう」 「〜(よう)にし)ましよう」 (例) みんなで遊ぼう	「〜(よ)うにし)ましよう」 「〜(よ)うにし)ましよう」 (例) みんなで遊ぼう	(理由…のため) 「〜てください」 「〜ましよう」	保護者が行動を起こすこと 保護者が気をつけること	
先生の意見 園の目標	条件のある準備 特に準備しなければならぬ い持ち物について	細かい指示	可能か不可能かを知らせる 行動の可・不可を判断	可能か不可能かを知らせる 行動の可・不可を判断	どのようなにするか	子どもが気をつけること	子どもへのメッセージ		表わされている内容	

様子	表 現	表わされている内容
終助詞	「〜てくださいね」 「〜ていきたいですね」 「おいしいね」	丁寧な表現 話しことば的
記号や表現	「!」「★」「◎」 「例」お楽しみに! 負けないぞ〜!	特に「!」は頻繁に使われており注意を促している
接頭辞「お」	「例」お家、お子様、お手紙、おともだち	

「〜てください」が最も多く、園だより保護者が準備や注意しなければならぬことを伝えている文書であることが窺える。また、文末表現を見ると「確認してくださいね」「ステキな年になりますように」「元気だね」など話しかけているような表現も所々に見られ、ただの依頼ではなく、先生から園児と保護者へのメッセージも書かれている。表現で特徴的なことは、園児へのメッセージと保護者へのメッセージが混在していることである。例えば、「自分のことは自分でできるようにしましょう」は園児へ、「お家の方はお子さまの頑張りを見守ってください」は保護者へのメッセージである。このように、複数の内容が混在する。これは他の文書と異なり、理解が難しいかもしれない。そこで、表1の表現とその表現で表されている内容を前以て知っておくことで、保護者がしなげばならないこと、子どもにさせなければならぬことが容易に理解できるのではないだろうか。

### 3-2. ことば

次に、ことばに着目し、その特徴をまとめた。

#### ①「園」のつくことば

「例」登園、降園、通園、来園、本園、園指定、園舎、園内、園外、休園、園医、園生活、園庭

#### ②幼稚園で使われる独特な表現

「例」張りきる子、出し物、かけっこ、心待ち、思いきり、笑顔、集い、ひとまわり大きくなった、パワー全開、〜を味わって、〜に触れ

#### ③頻繁に出でることば

「例」安全に／な、○○な子、約束を守って、十分に

#### ④子どもの成長や園生活に関する副詞

「例」じっくり(楽しむ)、必ず(〜てください)、いよいよ(〜です)、しっかり(〜ましょう)、なるべく(〜ましょう)、のびのび(成長してほしい)、なかなか(〜ません)、ちょっと(〜になった)

⑤普段は漢字表記が多いがあえて「ひらがな表記」されるもの  
「例」「ようちえんだより」「しゅっせきノート」など

主にこどもが目にするものが目立つ

⑥漢語ではなく和語で表現される

(例) 開始：はじまり 終了：おわり

### ⑦見出し

半数以上は「お知らせ」「お願い」「〜について」といった見出しであるが、見出しに直接伝えたいことがあげられているものも多い。

(例) ○○を忘れずに！ 風邪に負けないぞー！ 厚着に注意！

アリガオの種を蒔きました★ お手紙待っててね！

### ⑧字体

ポップ体などかわいいフォントが目立つ

①の「園」が付く表現は、外国語の辞書に掲載されていないことばが多くあり、外国人保護者が辞書を利用してことばの意味を理解するには難しいものと考えられた。しかしながら、頻繁に使用されるので、はやい段階で覚えることが望ましい。②③④は、子どもの成長や園での生活に使用されることばで、日常生活での使用場面が少ないのに対し、園の中では頻繁に使用されていることばである。⑤は、主に子どもが実際に使用するものについて、あえてひらがなで表記しているものである。こちらは、漢字圏の保護者にとって、漢字からの推測ができなくなる。⑥も同様に漢字圏学習者にとっては理解しにくいものと予想される。また、園のお便りの特徴として、前述したように、ひとつの文書の中に複数の伝達事項が掲載されているため、その一つ一つに見出しが⑦のように付いていることが多い。見出しがあればそこから大意を読みとることが可能なので、お便りを読む中でひとつのポイントとなりそうである。さらに、⑧

では、一般的な文書と違い、幼稚園のお便りでは、かわいいフォントが多い。日本語の文章に読みなれていない外国人保護者にとって、読みづらい文字もあるかもしれない。また、挿絵も多く使用されており、季節にちなんだものや、行事にちなんだものが多い。これらも、お便りを読んでいく上で、ヒントになると考えられる。

## 3-3. 調査1のまとめ

調査1より、お便りに書かれていることは、

①お知らせ（何があるか、何があったか）告知と報告

②お願い（どうするか）依頼

③気をつけること（家庭ですること）アドバイス

④園の方針（保育者の考え）

で、「〜てください」「〜ましょう」が頻繁に用いられていた。つまり、保護者が行動しなければならないことが最も多く記されていたことになる。その中で使用されることばの特徴は、一般的でない幼稚園独自のことも窺えた。

## 4. 調査2 バリエーションの調査

### 幼稚園のことばのバリエーション

東大阪市内にある幼稚園の入園案内のパンフレット及びホームページより「行事予定」（14園）、「一日の活動」（9園）の比較を行ったところ、行事、持ち物、活動、園の施設、その他（例…クラスの名

前)など園によって使用していることが異なっており、以下のよう  
に分類することができた。

#### 4-1. 行事について

①同じ行事について複数の呼び方がある

(例)七夕集会 七夕まつり会 七夕まつり

もちつき おもちつき おもちつき大会

運動会 大運動会 秋期運動会

豆まき まめまき鬼遊び大会 節分・豆まき 豆まきの集い

ひな祭り集会 おひなまつり会 ひなまつり

ひなまつりの集い ※漢字の違いもあり(例…雛祭り)

②園による差がないもの

(例)入園式、卒園式、内科検診、身体測定、夏休み、預かり保育、

個人懇談、避難訓練

③その他 内容が少し異なるために呼び方が変わるもの

(例)土曜参観 日曜参観 休日参観 保育参観 体育あそび参観

園外保育 宿泊保育 お泊り保育

観劇会 お別れ観劇会 劇団講演 人形劇観劇

おいもほり いも掘り遠足 焼きいも大会

親子さつまいも掘り やきいもパーティー

④園特有の呼び方

(例)らんらんくらぶ、おたのしみアトラクション、

びんびん大会

⑤園の名前を取り入れた行事

(例)○○フェスティバル、○○夏祭り、○○祭り

①については、園によるバリエーションは見られたが、ひとつの園内での使用は統一されていた。行事の内容自身は、今までに経験していれば想像できるが、まったく聞いたことがない日本の行事であれば、事前にある程度の知識を持っていることが望ましいであろう。それに対し、②や③などの行事では、呼び方に差があまりなく、ことばから内容が推測しやすい。ただし、参観や宿泊保育など、外国人保護者自身に経験がないものについては、詳細まで推測しにくいため、前以て情報提供ができていたことが望ましいと考えられる。④⑤については、ことばからではその内容まで理解することができない。これは日本人保護者にとっても同様であるため、お便りなどを通して、園から説明がなされることが想像される。よって、説明された内容をしっかりと把握することが大切になるであろう。

#### 4-2. 持ち物、活動、園の施設などについて

園児が使用するもの、活動の呼び名、施設の名称などについて比較した結果、4-1の行事よりもバリエーションがあることがわかった。特に、それぞれの園で行われている保育内容が異なることから、使用するものも非常に違いがあった。例えば、バス登園のある園と

ない園では、事情が大きく異なった。例をあげると、バス登園のある園では、バスのコースや、登園時間、バスの乗降場所、バス乗降場所での注意事項などが文書として配布されており、また担任に何かを伝えるには主に電話を使用する。それに対し、バス登園がなく毎日保護者が園まで子どもを送り迎える園では、保護者は担任と直接話をする。また園内に掲示板を設置している園もあり、それを確認するという作業が必要なものもある。掲示板を読み、アクションすることもまた外国人保護者にとっては負担の大きい作業である。給食、弁当の有無なども同様である。このようにある園では使用されないことも存在する。さらに、クラスの名前にも「ほし組・たんぽぽ組・かき組・こあら組」などさまざまな種類があり、未就園児保育、預かり保育、早朝保育、親子教室などに対し、「のびのびらんど・パンダルーム・カンガルークラブ」と愛称を使用している園が多い。ここからも特定の園でしか使用しない、ことばのバリエーションが窺えた。

#### 4-3. 調査2のまとめ

以上の結果から、どの園でも使用されていることは、似ている表現がされていることば、一園でのみ使用されていることばがあることがわかった。行事については、同行事であっても複数の呼び方があり、またその呼び方は、各園によって傾向が見受けられた。その他、持ち物、活動、園の施設などの「もの・こと」については、使

用するかどうか自体が園の活動内容で決定するため、より園ごとの差が見られた。

#### 5. 調査3 日本語学習者にとって難しい幼稚園のことば

調査2の結果から、幼稚園で用いられていることばには園ごとに異なるバリエーションがあることが明らかになった。そこで、その中で特にどのようなことばが日本語学習者にとって理解しにくいのかを明らかにするため、アンケート調査を行った。

#### 5-1. 調査方法

前述の東大阪市内の幼稚園で使用されていることば（行事の名前、もの・こと）の中から、調査4-1・4-2より「日本語母語話者でも説明を受けないと理解できないことば」「日本語母語話者なら実際に経験、もしくは子育てとして経験していれば理解できることば」「日本語学習者でも漢字やことばをヒントに推測が可能なことば」を予想し、それを含めたそれぞれ30項目を使用した。回答者は、留学生（のちA群）、子どもを幼稚園に通わせる予定のある女性の外国人生活者（のちB群）、また、日本語母語話者との比較を行うため、日本人（のち子育て経験者をC群、子育て未経験者をD群）にも、次のような記述式アンケートを行った。うちわけは、A群10名、B群4名、C群8名、D群7名で人数が少ないため今回は予備

的調査とする。

30個の項目それぞれについて、「A. よく知っている」「B. よく知らないが想像ができる」「C. まったくわからない」で回答を求め、得点をA:2点、B:1点、C:0点とし、その平均点を表した。さらにBと答えた場合は「①具体的に推測ができる」「②具体的には推測ができない」のいずれかを選んでもらった。また、アンケート回答後、必要に応じてインタビュー形式または筆記による追加調査も行った。

## 5-2. 日本語母語話者の認識度

東大阪市内在住の日本語母語話者（C群、D群）のアンケート結果は以下の通りである。

### 「C群とD群の全員が理解可能と答えた「幼稚園の行事」

C群	D群
内科検診 避難訓練 入園式 おいもほり お別れ会 ブラネタ リウム遠足 おもちつき 歯みがき指導 おひなまつり会 七夕 集会 子供の日の集い 泥団子作り 親子さつまいも掘り 口く う衛生指導 宿泊保育 生駒登山 おやつクッキング	内科検診 避難訓練 入園式 おいもほり お別れ会 ブラネタ リウム遠足 おもちつき 歯みがき指導 おひなまつり会 納涼 大会

さらに、これらの「幼稚園の行事」に対して、日本語母語話者であれば当然知っているが普段使用しないことばは何かを知るため、そのことばを「普段から使う」「普段は使わない」についても回答を求めた。その結果、ほとんどが「普段使う」と回答したのが「内科検診・避難訓練・入園式・おもちつき」の4項目であった。他の項目については知っているも「普段使わない」と回答した。

### C群とD群の半数以上が「知らない」と答えた「幼稚園の行事」

C群	D群
山手祭 ぴよんぴよん大会 親子まつり	山手祭 ぴよんぴよん大会 孫育て講座 生活展 ゆうべの集い

C群とD群にはやや差が見られた。子育て経験があるC群が圧倒的に認識していることばが多かった。また、どちらの群も認識度が低かったことばは、園特有のことばであるとも考えられ、このことばに対しては、外国人保護者が知らなくても問題ないことばということが言える。

幼稚園で使用する「もの・こと」も子育て経験のあるC群は理解できなかったことばがほとんどなかったのに対し、D群は以下の6項目について半数以上が知らないと答えた。

**D群が「知らない」と答えた「幼稚園で使用するもの・こと」**

メモリーノート ホームクラス 月刊絵本 おひさま号 設定保育 のびのびらんど

これらのことばについても、外国人保護者が理解できなくても当然と考えられることばと言って良いだろう。反対に、ほとんどが「知っている」と答えた「幼稚園で使用するもの・こと」に対して知っているが普段は使わないことばは、「遊戯室・園章・制帽・アルミ製の弁当箱・制靴」であった。

**5-3. 留学生に対する幼稚園のことばの理解度**

日本語学校などの日本語教育の専門機関で日本語を勉強することが、幼稚園で使用されることばの理解の助けになっているかを立証するため、日本語学校で日本語を学んでいる学生に対してアンケートを行った。回答した学生は漢字圏である中国語母語話者の留学生10名で、潜在歴は1年未満が1名、1年以上が9名、日本語の能力は、日本語能力試験N2合格以上である。この結果から漢字圏の学習者にとって理解しやすいことばとそうでないことばも考察した。

表2 留学生の理解度が低かった「幼稚園で使用するもの・こと」

10項目

順位	項目	得点	順位	項目	得点
1	こあら組	0	3	ベスト	0・3
1	のびのびらんど	0	4	制靴	0・4
2	スモック	0・1	4	ピアニカ	0・4
2	おひさま号	0・1	5	アルミ製の弁当箱	0・5
3	プールバック	0・3	5	うわ靴	0・5

このうち、子育て経験のない日本語母語話者も得点が低かったのは「のびのびらんど」、「おひさま号」であった。そのためそれ以外の8項目が中国語母語話者の留学生にとって特に理解しにくいことばだと言える。以下で述べる理解しやすいものに比べ、①実際使用したことがない、②漢字による推測ができないという特徴があると考えられる。「おひさま号」は幼稚園で子どもを送迎するバスの愛称である。留学生、子育て経験のない日本人で得点が低かった理由に、「バス通園の経験がなかったためわからなかった」ということが関係していることも追加調査で明らかとなった。

表3 留学生の理解度が高かった「幼稚園で使用するもの・こと」10項目

順位	項目	得点	順位	項目	得点
1	絵本袋	1・5	2	制帽	1・3
1	名札	1・5	3	メモリーノート	1・2
1	手ふきタオル	1・5	3	デザート	1・2
2	遊戯室	1・3	3	月刊絵本	1・2
2	園章	1・3	3	お道具箱	1・2

得点が高いほど「A. 知っている」「B. よく知らないが想像ができる」と答えたことばということになる。また、半数以上が「A. 知っている」と答えたのは以下の10項目である。

Aと回答した人数	項目
7名	名札、手ふきタオル
6名	園章、制帽、デザート、月刊絵本
5名	お道具箱、絵本袋、遊戯室、メモリーノート

右記の項目別詳細は、次の通りである。(数字は回答者数)

項目	A	B①	B②	C
名札	7	0	1	2
手ふきタオル	7	0	1	2
園章	6	1	0	3

項目	A	B①	B②	C
制帽	6	1	0	3
デザート	6	0	0	4
月刊絵本	6	0	0	4
お道具箱	5	0	2	3
絵本袋	5	3	2	0
遊戯室	5	2	1	2
メモリーノート	5	1	1	3

以上の結果より、5名が知っており、3名がよく推測ができる「絵本袋」の得点が最も高かったことがわかった。そこで、実際にこの「絵本袋」を正しく理解しているか、追加調査を行った結果、「持ち帰る絵本を入れる袋」と正しく理解していたのは1名のみであった。その他、「子どもが描いた絵を入れる袋」(4名)「絵を描く道具を入れる袋」(絵が描いてあるカードを入れる袋)「ゲームのカードを入れる袋」(詳しく分からないが何かの袋)という回答であった。その後の聞き取りから「絵本」ということばに馴染みがないので「絵」と「袋」から連想し、この結果を招いたことがわかった。同様に得点で3位になった「月刊絵本」では「月刊」と「絵」「本」から「1か月に1回に出版される本」「絵の本」「月刊絵」というタイトルの本」といった解釈をしていた。このことから、上記の調査の得点からでは本当にそのことばを知っているかどうかは計れないことがわかった。

そこで、残りの各項目についても追加調査を行ったところ、「名札、手ふきタオル、お道具箱」は正しく理解していたが、「遊戯室、園章、制帽、メモリーノート、デザート」については誤った理解をしている者がいることが明らかとなった。

表4 留学生の理解度が高かった「幼稚園の行事」10項目

順位	項目	得点	順位	項目	得点
1	内科検診	1・9	4	泥団子作り	1・3
2	避難訓練	1・7	5	生活発表会	1・2
2	入園式	1・7	5	口くう衛生指導	1・2
3	歯みがき指導	1・5	6	お別れ会	1・1
4	生活展	1・3	6	子供の日の集い	1・1

上位の3つは、調査2の園に差がないものであった。その他、日本の年中行事である七夕やひなまつりは上位に来ず、中国にもある子供の日に上位であることから、日本の行事についての知識が低いことが窺える。行事の上位10項目については、誤って理解したものはなかった。

表5 留学生の理解度が低かった「幼稚園の行事」10項目

順位	項目	得点	順位	項目	得点
1	昼店バザー	0	3	生駒登山	0・2

順位	項目	得点	順位	項目	得点
2	ゆうべの集い	0・1	4	おやつクッキング	0・3
3	びよんびよん大会	0・2	4	おひなまつり会	0・3
3	探検ごっこ	0・2	5	山手祭	0・4
3	プラネタリアム遠足	0・2	5	おいもほり	0・4

こちらも同様、わかりにくい理由は①実際に経験したことがない、②漢字による推測ができないという特徴があると考えられる。

また、留学生が日本語学校で学ぶことは生活密着型ではなく、試験対策が中心であるため、理解できなかったことも予想された。そこで、上記の10項目をリーディングチュウ太<sup>※①</sup>で分析を行った。レベル判定の結果は以下の通りである。

1級レベル	探検
2級レベル	まつり(祭) 登山 大会 遠足
3級レベル	会 お
4級レベル	昼店 ゆつべ
級外	バザー、生駒、集い、クッキング、びよんびよん、ごっこ、山手、プラネタリアム、ひなまつり、おやつ、おいもほり

級外が圧倒的に多く、1〜4級レベルのことはが入っている、例えば「探検」がわかっているも「ごっこ」がわからない、「遠足」がわかっても「プラネタリアム」がわからないといった事情があることが考えられた。

以上の結果から、漢字圏の日本語学習者は、行事については自分

の経験などから理解しやすいことばが多いのに対し、「もの・こと」に関しては、漢字からの予測はするものの正しく解釈することができず、ほとんどのことばについて理解できなかったことが明らかになった。また、滞在歴、日本語能力試験のレベル差も見受けられなかった。試験勉強や進学を旨とするような日本語学校で学ぶことは、外国人保護者が幼稚園での子育てのために使用することばの習得には有効ではないと言えるだろう。

#### 5-4. 生活者に対する幼稚園のことばの理解度

次に、実際に子どもを幼稚園に通わせる予定のある日本語学習者に、同様のアンケート調査を行った。対象者は、中国(2名)、ネパール(1名)、ベトナム(1名)である。うち3名がすでに子育てをしており、数年後に入園を予定している。

表6 生活者の理解度が低かった「幼稚園の行事」12項目

順位	項目	得点	順位	項目	得点
1	ぴよんぴよん大会	0	4	レストランごっこ	0・8
1	ゆうべの集い	0	4	宿泊保育	0・8
1	親子プレスクール	0	4	親子祭	0・8
2	探検ごっこ	0・3	4	生活展	0・8
3	フナタリウム遠足	0・5	4	昼店パザール	0・8

順位	項目	得点	順位	項目	得点
3	山手祭	0・5	4	納涼大会	0・8

表7 生活者の理解度が高かった「幼稚園の行事」12項目

順位	項目	得点	順位	項目	得点
1	七夕集会	1・75	3	おやつクッキング	1・25
1	入園式	1・75	3	お別れ会	1・25
1	歯みがき指導	1・75	3	親子さつまいも掘り	1・25
2	泥団作り	1・5	3	まめまき鬼遊び大会	1・25
2	避難訓練	1・5	3	おもちゃつき	1・25
3	生活発表会	1・25	3	子供の日の集い	1・25

留学生同様、調査2の園による差がないものは上位であった。留学生と異なり、子どもを幼稚園に通わせたことはないものの、「七夕、節分、子どもの日」について知識があり、上位に日本の行事が見受けられた。しかしながら、全員がよく理解しているわけではなく、やはり情報の提供が必要だろう。

表8 生活者の理解度が低かった「幼稚園で使用するもの・こと」6項目(得点が1以下)

順位	項目	得点	順位	項目	得点
1	おひさま号	0	2	粘土ヘラ	0・25
1	のびのびらんど	0	3	ピアーカ	0・5

順位	項目	得点	順位	項目	得点
2	こあら組	0・25	4	設定保育	0・75

表9 生活者の理解度が高かった「幼稚園で使用するもの・こと」

8項目

順位	項目	得点	順位	項目	得点
1	お道具箱	2・0	1	歯磨き粉	2・0
1	名札	2・0	2	うわ靴	1・8
1	手ふきタオル	2・0	2	メモリーノート	1・8
1	デザート	2・0	(3)	絵本袋他	1・5

留学生とは異なり、全員が知っていることばがあった。また、追加調査により、前述の項目について正しく推測していることも確認した。留学生が理解できなかった「絵本袋」についても、全員が正しく理解していた。これは、子育てをする中で「絵本」ということばを習得していたため、そこから推測したものであった。しかしながら、推測はするものの具体的にそれをどのように使用するかまでは想像できないという声もあった。

## 5-5. 調査3のまとめ

以上の結果より、日本語学習者であるA群よりも生活者であるB群のほうが、多くのことばをすでに理解できていることがわかった。しかしながら、日本語母語話者に比べるとまだまだ理解できていないことばも多く、支援が必要だろう。

わかりにくいことばには、①「実際に経験したことがない」、②「漢字圏の中国人には漢字による推測ができない」という特徴があると考えられた。

## 6. 考察と提案

以上の調査結果より、外国人保護者に対する幼稚園で使用される日本語の支援方法について考察を行った。

外国人保護者が幼稚園の配布文書を読むという作業には、もちろん「日本語で書かれた文書の読解」ということが含まれているが、実際はその文書を見て、持ち物の準備をしたり、園の行事に参加したりと行動をすることが伴っている。調査1の結果から、そのような保護者が行動を起こさなければいけないことが多く記されていることが明らかとなった。この保護者が行動を起こさなければならぬ表現には表1のような特徴があったため、事前に表1の表現を学習しておくことが望ましいだろう。そうすれば、その知識から一番

大切である行動を起こす内容をまず選び、読んでいくことが可能になるであろう。

非漢字圏の外国人保護者に対しての支援方法は、まずは園からの配布文書に読みなれることが重要だ。普段目にする文書とは異なるが、ひとつずつの文はそれほど長くなく、表現も多くない。表1でまとめたような表現に読みなれていき、また見出しを見てその内容を推測するような活動がよいと考えられる。もちろん、文書自身に、ルビをつけることが重要なことはいうまでもない。その上で、辞書に掲載されていないことばについては簡単にその意味を知ることができないため支援が必要であろう。漢字圏に対しては、ひらがな表記されるもの、副詞、和語で表記されるものを中心とした支援が効果的だろう。

幼稚園で使用されていることばについては、どの園でも使用されることばがあり、これは事前学習・指導が可能である。しかしながら、幼稚園で使用されることばにはバリエーションが多く存在し、園による差が大きいことも明らかとなった。これらのことばについては、それぞれの園でのフォローが必要である。例えば、その園で使用されることばの単語帳（翻訳）などがあれば大いに役立つと思われる。先行研究ですでに試みている園もあるが、今回の結果により、どの園でも同じ単語帳ではカバーしきれないということは明らかである。そこで、それぞれの園がその園で使用する特有のことばと外国人保護者が理解しにくいことばを意識し、単語帳を作成することが効果的な支援方法のひとつだと考えられる。

また、行事については園ごとに差はあまりなかったが、経験と知識がなければ、どのようなものか想像もつかない。どの行事に保護者が参加しなければならなかったことも含めた知識を、事前に伝える機会を設けることが望ましいといえる。これについては、地域日本語教室を大いに活用できそうである。

園に対しては、行事の内容や一年を通してどんなことをするのかという概要の提供が前以てあればよいと考えられる。さらに、保護者への文書を書く際は、

- ①ルビをふる（漢字圏・非漢字圏どちらの保護者にも対応できるように）
  - ②見出しを付ける（一目で内容がわかるよう）
  - ③行動を起こさないといけないことを強調する（最も重要なことを伝えるため）
- ことが有効であると考ええる。

## 7. まとめと今後の課題

今回の調査で、幼稚園で使用することばは日常的に使用しないことばも多く、また一般的な日本語教育では補えないため、特別な支援が必要であることがわかった。また、園によって持ち物や活動のバリエーションが大きく異なり、園独自のことが多いため、園ごとのサポートが必要であることも明らかになった。

本研究では触れなかったが、内海・澤（2013）で外国人保護

者のエンパワメントに着目し行った調査より「夫や姑がこどものことについて話し合い（中略）自分が母親ではない気がした」や「しゃべると外国人だと分かって扱いが変わる。外国人とは思われたくないから、他のお母さんと関わりたくない」という外国人保護者の考えが指摘され、「保護者同士の関係を築き、園の保育に対する保護者の連携態勢を作っていく」ことを提唱している。そこで、保護者同士のつながりを持たせるためにも、同園に在籍する園児の保護者が、外国人保護者と知識を共有するような場が持てることが望ましいといえるだろう。

今回、協力を得た複数の幼稚園では外国人保護者に配布する文書に対して、特別な取り組みを行っていなかった。今後、外国人保護者が自分自身で行いたいと願うお便りを読むことに対して、園からも前述したような配慮を行う環境が生まれることを期待する。

さらに、近年はお便りにとどまらず、インターネットを利用し、園からのお知らせや、保育の様子をメールやブログによって知らせるなど、保護者が日にしなければならぬものが多様化している。これについては今後の課題としたい。

## 謝 辞

本研究にあたりまして、幼稚園での配布文書の提供およびアンケートにご協力いただいた東大阪地域の幼稚園、地域日本語教室、日本語学校の皆様に心より感謝申し上げます。

## 注

- (1) ここで使用する「ことば」とは、主に幼稚園で使用されている語彙と、配布文書の中で使用されている表現をさす。表現は、文中、文末の文型の他に、マークや字体なども含む
- (2) NPO東大阪日本語教室 筆者も2004年より活動を続けている
- (3) 『幼稚園のほんご』『お知らせを読もう』『お便りを読もう』を作成

現在左記のブログにて公開中

「幼稚園のほんご」外国人ママのための日本語教材」

<http://youchennonihongo.dorblog.jp/>

- (4) アンケートで使用した30項目

行事

入園式	探検ごっこ	昼店バザー	おいもほり	山手祭
内科検診	おもちつき	歯みがき指導	納涼大会	レストラン
おひなまつり会	生活発表会	生活展	びんびん大会	避難訓練
親子 プレスクール	まめまき 鬼遊び大会	親子まつり	口くう衛生 指導	宿泊保育
泥団子作り	子供の日の 集い	孫育て講座	生駒登山	七夕集會
おやつ クッキング	お別れ会	親子さつま いも掘り	プラネタ リウム遠足	ゆうべの集い

もの・こと

設定保育	のびのびらんど	冬体操服上	粘土ヘラ	ホームクラス
お道具箱	ピアノカ	おひさま号	はなかみ	絵本袋
スモック	うわ靴	遊戯室	こあら組	メモリー ノート
名札	手ふきタオル	献立表	けんごうの きょうく	園章
制帽	トラロープ	アルミ製の 弁当箱	クラスカラー 帽子	デザート
歯みがき粉	ベスト	制靴	月刊絵本	プールバック

(5) 日本語能力試験

日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験として、国際交流基金と日本国際教育協会(現) 日本国際教育文援協会が1984年に開始。2010年より新しい内容に変更。N2レベルとは、日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができるレベルである。

(6) 「リーディングチュウ太」 <<http://language.tin.ac.jp/>>

川村よし子 北村 達也

日本語読解学習を支援するツールを提供するサイト。  
このシステムには、テキスト内の単語の意味を日本語で説明する「日日辞書ツール」、テキスト内の単語の意味(英訳)と読み方がわかる「日英辞書ツール」、日本語能力試験を基

参考文献

準にして単語の難易度を判定する「語彙チェッカー」、日本語能力試験を基準にして漢字の難易度を判定する「漢字チェッカー」がある。今回は、「語彙チェッカー」を使用した。ここの日本語能力試験の基準は2010年以前のものである。

(1) 内海由美子・澤恩嬉(2013)「外国人の母親に対する読み書き能力支援としてのエンパワーメント-幼稚園・保育園と連携した主体的子育てを目指して-」『日本語教育』155号、51-65。

(2) 大西早苗(2006)「外国籍の子を受け入れて-保護者とのコミュニケーションを図るために-」『日本保育学会大会研究論文集』49号、252-253。

(3) 政府統計の総合窓口 <<http://www.e-stat.go.jp/>>  
最終アクセス..2013年12月22日

(4) 富谷玲子、内海由美子、仁科浩美(2012)「子育て場面で外国人保護者が直面する書き言葉の課題-保育園・幼稚園児の保護者を対象とした調査から-」『神奈川大学言語研究』34号、53-71。

(5) 東大阪市平成24年版統計書  
<[http://www.city.nagashiosaka.lg.jp/cmsfiles/contents/0000010/10868/24\\_02.pdf](http://www.city.nagashiosaka.lg.jp/cmsfiles/contents/0000010/10868/24_02.pdf)>  
最終アクセス..2013年12月22日

- (6) 山本菜穂子(2007)「外国人幼稚の日本の保育園への適  
応に関する研究―保護者と保育士の視点の比較を通して―」  
『国際教育センター紀要』8号、75―90。

